生涯学習推進事業

祖父母・孫『ふれあい農園』甚句枝豆 パンプキン

今年もこんなに大きく実りました

むらおこしふるさとふれあい講座

“野菜づくりを通して子どもたちと楽しい交流を図ろう”——と、ことしも生涯学習事業の一つ「むらおこしふるさとふれあい講座」が大好評のうちに終わりました。二年目を迎えたことしのふれあい講座（ふれあい農園）は、昨年とはちょっと趣向をかえ、岩室地区（中央保育園）では甚句枝豆の栽培を、そして、和納地区（和納保、和第二保育園）では、わなみパンプキン（カボチャ）の栽培を老人クラブの人たちと共同で行いました。そこで今月号では、この楽しかった「ふれあい農園」の様子をご紹介しましょう。

みごとに育った「ふれあい枝豆」の収穫ではみんな大はりきり（8/29）

野菜づくりを通して世代を超えた交流を

“甚句枝豆やカボチャなどの農産物の生産活動を通して、異世代間の交流を図ろう”と計画された——「ふれあい農園」。昨年も生涯学習事業の一環として行われ大好評だったもので、昨年参加した人たちから「とにかく楽しい豆づくりでした」、「園児たちと豆づくりを通してのふれあいが楽しかったね、また来年もぜひ参加したい」との声が圧倒的でした。そんな大好評だったふれあい農園、ことしはもっと多くの子どもたちから、そしてお年寄りから参加してもらい楽しんでもらおうと早くから事業計画が練られました。

そして、ことしも岩室地区（中央保育園）では昨年実施した甚句枝豆の栽培はもちろんのこと、新しく和納地区（和納保育園、和納第二保育園）で、いま転作作物として注目を集めているカボチャ栽培にチャレンジしようと計画が進められました。

「こんなカボチャもあるんだよ」と大喜びの園児たち（8/25）

ところで、この事業の目的はというと、前にも広報でお知らせしたこともありますが、第一に地域おこしとして、甚句枝豆、わなみパンプキン（カボチャ）の産地拡大に関心をもってもらう。第二に特産物の生産活動を行うことにより、後進の育成に努める。第三に異世代間交流で生産活動を促進することで、産地育成への関心を醸成し、世代間相互の連携感を育てる。の三つが主な目的で、公民館を中心に県農業改良普及所、岩室、和納両農協、老人クラブ、村農政課、住民福祉課などが共同で企画運営しています。二年目のことしは、各機関の連携もすばらしく、それになんといっても老人クラブの人たち（会長大岩修作さん）の応援や地区の人たちの表面に出ない地味なところでの支援という、うれしい協力体制もあり、そんな訳で、ことしの「ふれあい農園」も、五月の種まきから収穫まで順調に進み、子どもたちとお年寄りたちのふれあいとともに甚句枝豆やわなみパンプキンも大きく育ちました。では、次のコーナーでふれあい農園の種まきから収穫までの楽しかった様子をご紹介しましょう。

中央保育園 伊藤恵梨ちゃん（5歳）
とてもおいしかった枝豆

枝豆もぎはむづかしかったけどおばあちゃんから教えてもらいながらやったので楽しかったです。それに、もいだ枝豆を帽子に入れていたら、おばあちゃんが袋に入れてくれました。ゆであがった枝豆もおいしく楽しい一日でした。

大きなカボチャにびっくり
和納保育園 小林卓くん（5歳）

カボチャとりをおじいちゃんとおばあちゃんたちと一緒にやりました。大きなカボチャをもったらとても重かったけどおもしろかったよ。それに小さくて、かわいいおもちゃカボチャもあったんだよ。

ふれあい農園パート1
ことしも豊作「ふれあい枝豆」

まず最初にご紹介します——ふれあい農園パート1。こちらは、昨年に引き続き、いま村内で産地化が進む“甚句枝豆”のふれあい栽培です。こちらの「ふれあい農園」、ことしは、中央保育園裏の転作田を借り受け、枝豆の種まきが行われたのが六月十三日。この日は、保育園で老人クラブの人たちと顔合わせの後、さっそく田んぼで種まき作業。「大きく育つといいね」「これはこうやってまくんだよ」など楽しい会話がはずむなか無事終了。そして、みんなの大切な枝豆畑を害鳥などから守るため、ことしもユニークな“かかし”が共同で立てられ豊作を祈りました。

七月に入ると、こんどは枝豆畑の草取りや予防などの作業も行われ、老人クラブの人たちはもちろん、園児らも夏の熱い陽差しの中、一生懸命汗を流しました。参加したお年寄りの中には「家でも枝豆を作っているんですが、それよりもこっちの畑の方が気になりましてね」なんて声も聞かれるほど皆さん一生懸命。

そんな苦労も三か月経ち、いよいよ待ちに待った収穫祭。計画では八月二十一日頃に収穫する予定でしたが、一週間ほど遅れた二十九日に収穫となりました。もちろん、収穫作業も老人クラブの人たちと園児との共同作業。大きく育った枝豆を掛け声もろとも引き抜く姿に、お年寄りたちもいままでの苦労も忘れてうれしそう。抜き取った枝豆は、さっそく橋本神社で豆もぎ作業の開始、大きく育った枝豆を園児らと楽しそうに一コ一コもぎとっていました。

豆もぎは橋本神社でワイワイ、ガヤガヤ、話しながらの作業にみんな楽しそうでした

ふれあい農園パート2
みんなで育てたふれあいパンプキン

一方、こちら和納地区でもことし初めての試みとして、“わなみパンプキン”作りが老人クラブと保育園児らで楽しく繰り広げられました。“パンプキン”といってもピーンとこない？人もいると思いますが、何をかくそうカボチャのことなんです。カボチャといえば、ほとんどの家庭で栽培していると思いますが、今回はちょっとかわったジャンボカボ